

4. 科学と宗教



スライド8 青の洞窟 カプリ島 イタリア

思考について色々考えていて、科学と宗教の関係や造物主の存在に思いを致すようになりました。

人類や人類社会が何を目標しているのか、何を目標すべきかは、難しい問題でしょう。ここでは、一応、真・善・美を目指しているとしましょう。

科学のアプローチ

それに対する、科学のアプローチは思考法という帰納法です(他に一部演繹法)。自然の事象や実験結果などを分析し、集約し、理論化し「真」に近づくアプローチです。

科学の進歩は、物理の世界では太陽や星の運行を解明し、人工衛星や探査機を打ち上げられるようになりました。細分化できない最小単位としてアトムと名付けられた原子が細分化され、電子や中間子・素粒子などの存在もわかりました。

また生物学の世界では、進化論に始まり、DNA の存在が明らかになりました。

脳科学の世界でも、脳の領野とその機能や、シナプスの働きなどの解明が進みつつあります。

一方解明が進めば進むほど、分からないことが出てきて、「真」が遠くく観すらあります。たとえばDNA の構造と遺伝暗号は解明されても、その意味や機能は新たな不明点になり、生命の起源などは全く未解明です。「無知を知る」状況です。スライド9のように山に雲がかかり頂を見ることはできません。

サムシング・グレート

天体の運行と原子の中の粒子が同じ物理理論にしたがっていることやDNA は人間や哺乳類だけでなく植物・菌類を含むすべての生物の共通アーキテクチャーであることなど驚異というしかありません。

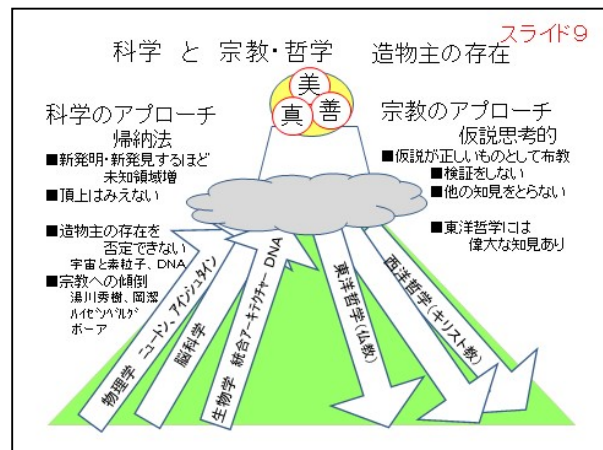
このような精妙で、汎用的システムの構築などビ

ッグバンやそれに続く化学反応や進化などでつくられるなど想像できず、サムシング・グレート(神、造物主、創造主……)の存在を考えたくになります。

宗教のアプローチ

真・善・美に対する宗教のアプローチは思考法でいうと仮説思考的であるといえます。それぞれの宗教は教義という仮説を掲げ布教を行っています。本来の仮説思考の場合、その仮説の検証を行って、真か偽か判定するわけですが、宗教はこの検証を行っていないことが問題です。

それでも人は、死やわからないこと、不合理と感ぜられることにも対応していく必要があります、宗教の教義(断定された仮説)も心の支えになるでしょう。



科学と宗教

愛とか和とかを目指すべきなのに、宗教は戦争の原因の1つになっています。また科学が戦争の悲惨さの増幅器に墮しているのは残念なことです。

科学的に完全に検証されている地動説や進化論を認めない宗教・宗派があり、科学と宗教の相克があるわけです。逆に宗教は死、不運や不当な扱いなどを受容すべきとの教えを重視していますが、医学的にもこのような態度が健康・長寿をもたらすことが証明されており、科学と宗教が一致している例です。

般若心経の「色即是空」と相対性理論の「 $E=mc^2$ 」は同じことを示唆しているという説など、仏教の経典と物理学の相似性の指摘もあります。それもあつてか、アインシュタインや湯川秀樹さんら高名な科学者(特に物理学者)が仏教に興味を持ち仏典を読んでいたそうです。

理想をいえば、科学と統合的な、戦争を忌避する宗教の創造が待たれます。